福井県衛生環境研究センター研究員活動報告　概要

発表演題名	豪雪地帯における高齢者支援を考えるー「平成 18 年豪雪」を踏まえてー
報告書名	フランスベッド・メディカル・ホームケア研究・助成財団報告書
発表者名	斉藤　みゆき　（健康長寿推進室）
発表時期	平成 20 年 9 月
発表内容	福井県内で豪雪地帯に指定されている地域の在宅高齢者への支援のあり方について、「平成 18 年豪雪」を踏まえた冬期間の実態を調査し、同時に高齢者をとりまく社会情勢を過去の豪雪と比較して分析することにより、豪雪地帯という地域特性に合わせた高齢者支援の検討を目的に研究を実施した。 その結果、要介護認定者の 15%程度の人が冬期間に歩行が困難になり、元気な高齢者でも、冬期間は冬前に比べて健康状態が悪化したと感じている人が 15%程度に見られた。少子高齢化が進み、独居高齢者、高齢者世帯の急激な増加をはじめとした社会全体の構造が大きく変化している中では、積雪量が例年と大きく変わらなくても、高齢者の受けるダメージが大きくなることが考えられた。 抑うつ尺度でハイリスクと判断された割合は、全体の半数近くになり、心身ともに冬期間の高齢者支援は重要な課題であると思われた。 地域別では、気象の違いの影響のためか、冬期間の活動量の低下などは、積雪が多い地域ほど顕著に見られたが、積雪のほとんどない地域でも、冬は活動が低下していた。抑うつ尺度では地域差はほとんどなかったことより、冬期間の高齢者への心身の支援は、福井県内全域で取り組む課題であることが示唆された。